

東京都公民館連絡協議会研究大会レポート

【細江委員】

国立市で開催された第 61 回東京都公民館研究大会に出席しました。(田中さんが話されることと、一応小平市公民館運営審議会のメンバーなので)

「東京の公民館のおととい(過去)としあさって(未来)」というテーマで基調講演と 3 名のシンポジストのお話を聞きました。

一番良かったのが、当然の事ながら「小平市 移動式子ども食堂カモミール」の報告をされた田中貴子さんでした。

日本で最初の移動式子ども食堂・今までに 1 万食を提供・子どもだけでなく多世代の利用が増えている・公民館が身近な場所となって来た・大勢の方々の居場所となっている(ボランティアの皆さんもそうですよね。)

小平市の社会教育活動は昭和 21 年から始まり昭和 23 年に開館するという歴史的にも古く、かつ中央公民館と分館が 10 館合わせて 11 館あると言う恵まれた市です。(因みに国立は 1 館、国分寺は 5 館、東村山、東村山、西東京は 6 館)

公民館運営の外部委託など、様々な問題があるので、関心を持って利用しましょう。

【多田委員】

テーマ「公民館・生涯学習センター等の可能性を再発見しよう！」

令和6年度は 1974 年に東京都教育庁が発行した「新しい公民館像をめざして」(いわゆる『三多摩テーゼ』)から 50 年の節目の年です。多摩地域の公民館のあゆみをふり振り返りながら、公民館をめぐる現状と期待を共有しながら、東京の公民館の未来について考える大会として開催されました。

主催は東京都公民館連絡協議会、会長は小平市中央公民館季高一成館長の開会挨拶から始まりました。

◆基調講演「三多摩テーゼの歴史的意義と今後の展望」講師:佐藤一子さん(東京大学名誉教授)

◆シンポジウム・ディスカッション「公民館・生涯学習センター等の可能性を再発見しよう！」シンポジスト・・・西山佳孝さん(公民館のしあさって・プロジェクト)、田中貴子さん(小平市移動式子ども食堂カモミール)、針山和佳菜さん(国立市公民館社会教育主事)、佐藤一子さん(東京大学名誉教授)、コーディネーター:井口啓太郎さん(国立市公民館館長補佐)

基調講演後、シンポジウム中も随時質問・コメント用紙を回収していて、会場にいる出席者が講演を聞くだけでなく、一緒に参加するスタイルで進行されました。

シンポジウム後半には、会場にいる近くの人と話し合いをする時間も設けられ、多摩地域の他市の方々と意見交換出来ました。

講演の中の、「公民館は人と人が出会う『交差点』であり、新たなコミュニティが生まれる場所」という考えが特に印象に残っています。

私の町の交差点で何をしようかなとワクワクさせてくれた研究大会でした。

【矢島委員】

三人の登壇者の感想ですが、

1. 一人目の男性の方は、少し理屈が多すぎて意図が良くわからなかったですが、公民館の利用者としてかなり頑張っておられたことには感銘いたしました。公民館としても利用者の声を反映することは、重要なことだと思います。

また、その意図を深掘りすれば公民館の未来が見えてくる気がします。是非、小平でもトライして頂きたいと思います。

2. 小平市の子ども食堂の話は福祉の観点、若い人が公民館を利用するきっかけにもなるなど素晴らしい試みかと思います。子ども食堂に限らず、公民館とこのようなNPO等の組織が場所貸しを含めて協力することはこれからの公民館の進むべき方向だと思います。是非、範囲を拡げて頂ければと思います。

3. 国分寺市の職員の話は、特段に記憶には無いです。ただ、一生懸命に話されていたことは好印象でした。

4. 大学の先生の話は全く記憶に残っていません。恐らく目新しいものがなかったのかと思います。

【長澤(澄)委員】

初めて研究大会に参加しました。くにたち市民芸術ホールは満席で主催者側、参加者の方々の熱気を感じました。今回の基調講演は佐藤一子さんで「三多摩テーゼの歴史的意義と今後の展望」というテーマでお話をされました。佐藤一子さんのお話は、大変解りやすく戦後から今に至る公民館の流れが理解できました。1954年に三多摩テーゼを発行してから50年。今の公民館の姿、また今後の公民館の在り方、多様性を求められる現代にどのように取り組んでいくか難しい問題だと思いました。

シンポジウムでは子ども食堂をされている田中さん。公民館職員の針山さん、少し離れたところから公民館を覗いている西山さん。どの方のお話も興味深く参考になりました。参加者同士のグループワークもあり私は西東京市の方と意見交換しました。他市との交流も今後の公民館を支えるにあたって有意義なものと思いました。